

療養費・家族療養費の請求について

組合員証(被扶養者の場合は被扶養者証)をやむを得ない事情により使用できず、いったん医療費全額を支払った場合は後日、公立学校共済組合に請求することにより、組合員証を提示したときの療養の給付などに相当する費用(健康保険組合が負担する医療費)を「療養費・家族療養費」として受け取ることができます。

※健康診断、予防注射、インプラント、レーシックなど、健康保険の適用外であるものは療養費請求の対象外です。
 ※厚生労働大臣の定める基準に基づいて算定しますので、支給額は実際に支払った額の7割(未就学児は8割)と異なることがあります(特に、海外で受診した場合など)。

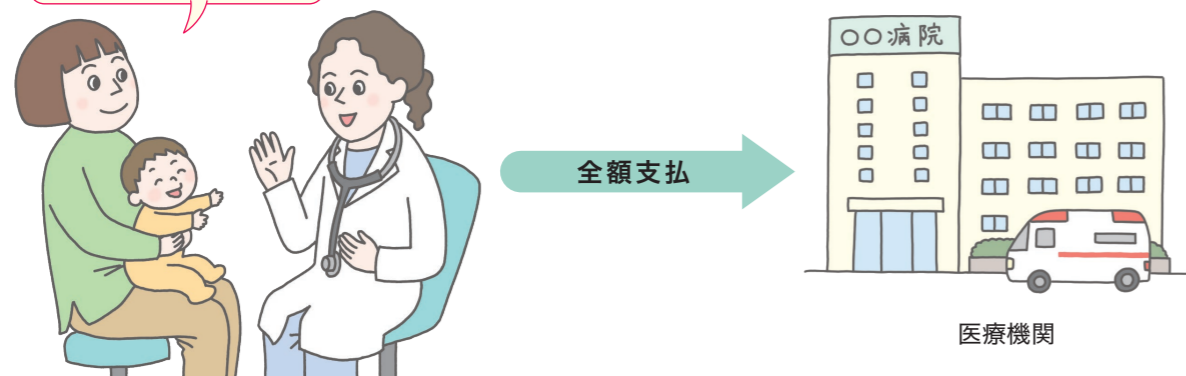
次のような場合に療養費・家族療養費の支給対象となります。



1 組合員証(被扶養者証)を提示しないで医療費全額を自己負担した場合

例 被扶養者の認定申請中や旅行・帰省先での組合員証の不携帯など
 ※やむを得ない事情とは認めがたい事由(持って行くのを忘れたなどの証不携帯)による請求は受け付けできません。

まだ、認定申請中で被扶養者証がないわ



療養費等請求書【用紙No.療養1】※に、医療機関で作成してもらう①と医療機関から発行された②を添付して、所属の共済事務担当者を経由してご提出ください。

※療養費等請求書【用紙No.療養1】は、受診者ごと、暦月ごと、医療機関ごと、入院・外来ごとに作成してください。

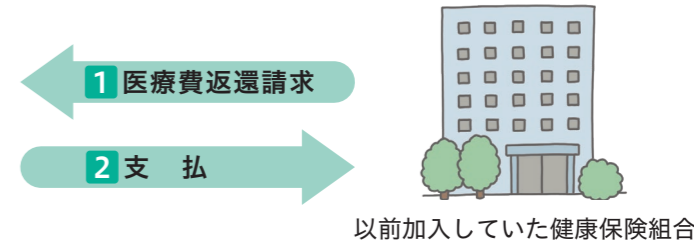
添付書類

- ①診療(調剤)報酬領収済明細書【用紙No.療養2、3、4】
 ※医療機関仕様の様式(通称:レセプト)でもかまいません(会計時に発行される「診療明細書」などは、傷病名の記載がないため不可)。
- ②領収書(原本)
 ※原本は返却しませんので、必要があればあらかじめコピーをお取りください。

2 誤って、以前加入していた健康保険組合等の保険証で受診したため、以前の健康保険組合へ医療費を返還した場合

例 他の健康保険組合に加入していたが、新たに公立学校共済組合の組合員(被扶養者)になった場合

返却するのが遅れてしまった
 以前の健康保険証を誤って病院へ提示してしまったな



以前加入していた健康保険組合へ医療費を返還した後に、療養費等請求書【用紙No.療養1】に以前の健康保険組合から交付された①および②を添付して、所属の共済事務担当者を経由してご提出ください。

※療養費等請求書【用紙No.療養1】は、受診者ごと、暦月ごと、医療機関ごと、入院・外来ごとに作成してください。

添付書類

- ①診療(調剤)報酬明細書(写)
 ※開封厳禁のため所属所でも開封せず封書のままご提出ください。
- ②以前の健康保険組合へ医療費を返還したときの領収書(原本)
 ※ATMの振込明細のみでは受け付けることはできません。

3 公立学校共済組合が療養の給付などの現物支給を行うことが困難な場合(組合員証が使用できない場合)

- (1) 保険医療機関がない地域(へき地など)での受診
- (2) 海外での受診(治療目的で渡航し、受診した場合は対象外)
 ※本誌P26に詳しい記事を掲載しております。
- (3) 保険医療機関で行われていない準医療行為などで、医師が治療上必要と認めたもの
 - 治療に必要な装具の購入費用 ●臓器移植に際して、移植臓器の搬送に要した費用
 - 輸血の生血液代 ●はり、きゅう、マッサージの施術費用
 ※受領委任契約を結んでいない柔道整復師による施術も療養費請求の対象となります。
 ※請求事由により、提出書類が異なりますので、福利厚生ハンドブックなどをご確認ください。

注意!!

- 公務災害や通勤災害による傷病については、健康保険や療養費請求の対象になりません。
 - 交通事故など、相手方(加害者)の行為によりケガをして治療を受けた場合、その治療に要する費用は加害者が負担するのが原則で、健康保険や療養費請求の対象になりません。
- ※次のような場合は、事前に公立学校共済組合に連絡し、了承を得ることにより、組合員証を使用して治療を受けることができます(所定の書類提出が必要です)。
- ・交通事故で組合員側の過失割合が大きい場合や相手が不明の場合
 - ・公務災害や通勤災害に認定されるまでの間、何らかの事情により組合員証の使用が必要な場合

問合せ先 給付貸付課短期給付担当 ☎03-5320-6827

